

34 北陸大学

I 認証評価結果

【判定】

評価の結果、北陸大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると認定する。

【認定期間】

認定期間は、平成 19(2007)年 4 月 1 日から平成 26(2014)年 3 月 31 日までとする。

【条件】

特になし。

II 総評

昭和 50(1975)年に薬学部を持つ単科大学として創設され、40 年代に深刻な社会問題化した公害、薬害問題を背景に、薬学教育に東洋医薬学を積極的に取入れるべきとの考えから「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間形成」を建学の精神として掲げてきた。その後、国際化の進展に即応すべく「グローバルアイ」を大学の理念として加え、優れた人間性と国際性を備え、かつ実践的な能力を持った人材の養成を目標とし、人文社会系の学部も擁する総合的な組織構成へと発展してきた。

この建学の精神、大学の理念は、大学の使命・目的として、更に学部・学科別の教育の目標として、より具体的に明文化されている。これらは様々な媒体などにより教職員、学生に周知され、大学としての共通意識を高めるとともに、保護者や地域社会に対しても理解を得るべく周知の努力が払われている。

教育研究の基本組織として、薬学部及び大学院薬学研究科と未来創造学部があり、このほか、教育能力開発センター、国際交流センター、情報センターなどの附属機関を置いている。これらは大学の使命・目的に沿った人材養成のための組織として適切に構成されている。また、センターなどの附属施設は、学部との連携の下に、幅広い教養教育や中国に重点を置いた特色ある留学生交流の実施に当たるなど、組織相互の適切な関連性が保たれている。

実務能力とともに国際性と豊かな人間性を備えた人材養成を目標として、効果的なカリキュラムが組織的に編成されており、かつ、「年間 250 日教育」の方針の下で、担任制や RVES（遠隔授業配信システム）の活用をはじめ、学生の多様性に応じた個別的な学習指導・支援が行われており、「手間ひまかけた教育」という大学の方針が教育の現場によく浸透している。

「意欲がある人は受け入れる」という受入れ方針を明確にし、これに沿った選抜を実施しており、学力の多様化に対しては、入学前教育や初年次教育の充実に努めている。学生の海外交流については、北陸大学孔子学院などを中核として、対中国を中心に特色あるプ

プログラムを展開している。また、インターンシップの実施など就職支援体制も整備されている。

専任教員数は大学設置基準を充足しており、かつ、主要科目への専任の配置など教員の配置は概ね適正である。特に、薬学部では専門領域を4分野20教室に分けて教授以下の教員をバランスよく配置している。研究費については、基盤的な配分に加えて、比較的大きな特別研究助成金が配分されており、薬学部では准教授以下の薬剤師資格を持つ教員を対象に1か月研修を行うなど、教育研究の活性化に取り組んでいる。

事務局長の統括の下に管理本部、学事本部、事業企画本部を配置する事務体制は、組織編制の視点が明快で完成度が高く、教育研究支援の機能分担も明確である。また、「グローバルアイ」の理念に沿って、職員についても積極的に海外派遣研修を行っていることは職員の意識と資質を高める優れた取り組みである。

基本的な管理運営の組織は整っており、理事長、学長のリーダーシップの下に、大学の使命・目的に即した適切な運営が行われている。管理・教学両部門の幹部で構成される「月曜会」が全学的な調整機関として効果的に活用され、また教学関係の各種委員会には管理部門の幹部も参画することにより、両部門の連携は適切に保たれている。

消費支出の計画的な管理がなされており、また、教育環境の充実のため2号、3号基本金の組入れを実施し、事業収入や資金運用収入の増加を図るなど、総じて教育研究目的達成のために必要な経費が確保され適切な運営が行われている。会計処理は適正に行われており、公認会計士及び監事による監査、財務情報の公開も適切に行われている。

太陽が丘と薬学との二つに別れたキャンパスは、校地・校舎とも大学設置基準に対し十分なゆとりを持って整備されており、安全性、快適性にもよく配慮されている。施設設備の管理はよく工夫され適切であり、地域への開放にも配慮され、有効に活用されている。

「北陸大学オープン大学」「北陸大学孔子学院」などが中核となって実施する教養、健康、語学など多彩な公開講座、高大連携、企業などとの連携、施設の地域への開放など、地域社会との連携には積極的に取り組んでいる。

教職員に対し、大学の構成員としての行動規範などを示した「北陸大学証」の携行とその遵守を求めるなど、大学としての社会的責務を果たすべく組織倫理の徹底を期している。防災、学生の安全対策などの危機管理体制は整備され適切に機能している。

III 基準ごとの評価

基準1．建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

【判定】

基準1を満たしている。

【判定理由】

建学の精神である「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間形成」及び大学の基本理念として後に加えられた「グローバルアイ」は、開学以来の大学の教育研究の姿を明快に示しており、大学の教育研究の機軸としての役割を果たしている。

建学の精神及び基本理念の内容は、大学の使命・目的として、また各学部・学科の教育目標として、より具体的に明文化され、カリキュラムや学生指導など具体的な教育の実践に具現されている。

これら建学の精神、大学の基本理念及び使命・目的は、学則、ホームページをはじめ、各種の資料などによって示され、また各種の会合や会議などにおいて説明されるなどにより、学内及び保護者や地域社会の人々に対して十分に周知の努力がなされている。

【優れた点】

- ・建学の精神及び大学の理念は、大学のホームページや「北陸大学証」、学生便覧、各種の広報資料などによるほか、会議や集会などの機会に、理事長、学長などが説明しその徹底に努めるなどにより、学内外に十分に示されている点は高く評価できる。
- ・建学の精神、理念、使命・目的、教育方針などを記載した手帳「北陸大学証」を全教職員に配付し、携帯を求めていることは、大学の基本理念や運営方針に関する教職員の共通意識を高めるものと評価できる。

基準 2．教育研究組織

【判定】

基準 2 を満たしている。

【判定理由】

教育研究の基本的な組織として理系の薬学部及び大学院薬学研究科と文系の未来創造学部、また教養教育、国際交流、社会連携などの機能を担う補完的組織として教育能力開発センター、国際交流センター、情報センター、留学生別科などの附属機関、更に併設機関として北陸大学オープン大学、東アジア総合研究所、北陸大学孔子学院を置き、相互連携の下に両学部の専門教育及び幅広い教養教育を行える体制を整えている。

主要科目への教員配置も概ね適正で、大学が掲げる教育理念の実現と学部が目的とする専門教育達成のための教育・研究組織として適切な構成である。

学部、センターなどの組織は、「北陸大学運営規程」に定めた教授会ほかの会議体によってそれぞれ運営されており、組織間にまたがる問題、全学的な問題は「全学教授会」に諮って意思決定されている。大学が構成員の意見を汲上げつつひとつの統率された組織体として機能するように適切に整備されている。

【優れた点】

- ・東アジア総合研究所、北陸大学孔子学院、留学生別科などを設置して東アジア、特に中国との交流を積極的に進め、両学部の人材養成に生かすだけでなく、地域社会の国際理解やキャリアアップに積極的に貢献している点は高く評価できる。

基準 3．教育課程

【判定】

基準 3 を満たしている。

【判定理由】

豊かな人間性と国際性を兼ね備え実務能力に長けた人材育成を目標に、少人数による実習、演習を多く取入れた効果的かつ充実したカリキュラムが編成されている。

薬学部では、平成 18(2006)年度の薬学教育 6 年制移行時に日本薬学会「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠して教育課程を再編成するだけでなく、国際性があり医療人として人格的にふさわしい薬剤師養成を目標に、人間教育や語学教育の充実を図るとともに実習ではマンツーマン教育の機会を増やして技能の向上を図っている。

未来創造学部は、語学教育、法律・政治関係、国際貿易・金融・文化関係など、多岐にわたる講義科目を選択科目として開講し、また、海外留学などの体験学習を積極的に推進するとともに徹底した演習教育を行い、語学力、教養力とともに多様な実務能力を習得できるようにカリキュラムを組んでおり、学生一人ひとりのニーズに合わせたテーラーメイドの人材育成を可能にしている。

年間授業予定、進級・卒業要件などは、学生便覧ほかで学生に明示されており、内容的にも大学設置基準に照らして適切である。全授業科目についてシラバスを作成し、GPA(Grade Point Average)による評価制度を導入して教育改革を着実に進めている点は評価できる。

【優れた点】

- ・ OSCE（客観的臨床能力試験）、CBT（コンピュータを用いた知識評価のための多肢選択形式の試験）の学内トライアル実施、薬剤師教員の医療現場での実務研修、実験科学棟の新設、附属薬局や山中町セミナーハウスの開設など、ソフト、ハード両面で新薬学教育課程の環境整備に真摯に取り組んでいる点は高く評価できる。
- ・ RVES（遠隔授業配信システム）による学習支援は、学生の利用頻度が高く、個人ないし少人数の演習・実習、担任制による個別指導と相まって教育効果を上げており評価できる。
- ・ 薬学部は、能力別リメディアル教育、対話形式による語学教育、単位未修得科目の補習受講の義務化など、落後を防ぎ教育効果を上げるために必要な講義や演習を設けて、きめ細やかな学習指導を行っている点は評価できる。
- ・ 中国の提携大学との「2+2 共同教育プログラム」は、双方向遠隔授業なども取入れ、国際交流の実をあげており、特色ある取り組みとして評価できる。

基準 4．学生

【判定】

基準 4 を満たしている。

【判定理由】

アドミッションポリシーは明確であり、この方針に沿って多様な選抜方式がとられている。多様な学力をもった学生の入学に対して、入学前教育、初年次教育などのプログラムを実施している。

更に、入学後は、担任制、リメディアル教育、定期試験終了後のフォローアップと補習を行う授業週の確保、RVES（遠隔授業配信システム）、TA(Teaching Assistant)採用などにより、教育支援を充実させている。学生サービスのための福利厚生施設も充実している。

北陸大学孔子学院や東アジア総合研究所など附属機関を設け、全体として中国を中心とした留学生の派遣・受入れ、国際交流など各種のプログラムを展開し、また、留学生の手厚い受入れ体制を敷いていることは、特色ある教育として評価できる。インターンシップなどの就職支援体制も整備されている。

【優れた点】

- ・「フレッシュマンセミナー」という科目名での初年次教育、休業期間中の学習計画指導など、きめ細かで手厚い担任制度、IT を活用した独自の RVES の構築、更に定期試験後の成績表のフィードバックと成績不振者への補講など、学習支援の体制が組織的に工夫され、実施されている点は高く評価できる。
- ・北陸大学オープン大学、北陸大学孔子学院、東アジア総合研究所などの附属機関による教養教育、資格取得支援、国際交流など、多様な教育プログラムが展開されており、更に旅費の補助制度を充実させることにより、学生に多様な学習経験の機会を提供している。
- ・相当数の海外からの留学生に対して、留学生の母国語で対応できる教職員を確保し、一貫した手厚い受入れ態勢を整えていることは評価できる。

基準 5．教員

【判定】

基準 5 を満たしている。

【判定理由】

大学設置基準で求められている専任教員数を満たし、必修科目などの主要科目については、専任教員が担当している割合が比較的高く、概ね教員配置は適正である。特に、薬学部では、薬学にかかわる専門領域を 4 分野 20 の研究室に分けて、教授以下の教員をバランスよく配置し、TS（Teaching Staff：助手）や TA(Teaching Assistant)を一定数採用するなどにより指導体制が適切に組まれている。

教員の任用基準は明確に規定され、周知されている。更に、教員の業績評価基準は明快であり、かつ教育重視の方向が打出されている。

教員の教育担当時間は概ね適切であり、また、基盤研究費に加えて特別助成金制度を設けて教員の研究活動を支援する措置が取られている。

FD(Faculty Development)への取り組みも開始され、また教員評価については、教員の研究業績のみならず、教育業績、学内委員会活動、社会活動を総合的に評価する体制があり、

特に、教育力を重視した方向で運用されている。

基準 6．職員

【判定】

基準 6 を満たしている。

【判定理由】

学校法人と大学を一体化した事務局の組織編制及び職員の配置は合理的で、バランスが取れている。

職員の採用に関しては、人事の透明性・公正性を確保するために、公募制を原則とした採用制度を確立している。年 2 回の自己申告制度や職位ごとの人事考課については、事前に人事考課基準を定めた人事考課表を提示して評価を行い、人材育成と組織の活性化を図っている。

職員の資質向上への取組みとしては、「グローバルアイ」の理念に基づき積極的に海外派遣を進めるとともに、大学主催のセミナーへの参加により、職員の意識改革や個々人の資質向上に大きな成果を上げている。

各部署の職員が学内の各種委員会に委員として参加し、大学全体の教育研究機能が十分に発揮でき、教学の運営に事務組織が密接にかかわる体制が構築されていることは評価できる。

【優れた点】

- ・法人の運営全般の業務に当たる管理本部、大学の教育研究を管轄し直接・間接に支援する学事本部、大学全体の広報及び入学者にかかわる業務並びに大学の対外的な事業を運営・支援する事業企画本部をそれぞれ適切に配置し、これを事務局長が統括する体制は、組織編制の基本視点が明確に確立されており評価できる。
- ・職員の海外派遣を積極的に行い、職員の資質向上の機会を提供していることは、国際人育成を目標とする大学の理念及び建学の精神にそったものと評価できる。
- ・学事本部を中心として教育・研究を支援する事務体制が整備されており、職員が大学の各種委員会に教員とともに委員として参加していることは、教学の諸問題に職員が教員と一体になって当たっていることの表われとして評価できる。

基準 7．管理運営

【判定】

基準 7 を満たしている。

【判定理由】

基本的な管理運営の組織は整っており、学内のコミュニケーションを確保しつつ理事長・学長のリーダーシップの下で大学の使命目的に即した適切な運営が行われている。

管理部門と教学部門の幹部で構成される「月曜会」が、全学的な調整機関として有効に活用され、また教学関係の各種委員会などには管理部門の幹部職員も参画することにより、管理・教学両部門の連携は適切に保たれている。

自己点検・評価の実施体制及びその結果を運営に反映させるシステムについては一層の組織的整備が望まれるが、既に平成 14(2002)年度に自己点検・評価を実施し、現状の問題点とともに改善・改革の方策を示し、その多くを実現しているので、今後の努力に期待できる。

【優れた点】

- ・ 寄附行為に基づく学校法人の基本的な管理運営体制は整っており、かつ常任理事会による機動的な意思決定の機能と「月曜会」による全学的な意見調整の機能が活用され、大学の使命・目的に沿って適切に運営されていることは評価できる。
- ・ 「月曜会」をはじめ、学内の各会議に管理部門と教学部門の関係者が幅広く出席することにより、両部門の連携は適切に保たれている。

【参考意見】

- ・ 全学的な自己点検・評価の実施体制を構築するとともに、その実施結果を着実に改革・改善に繋げるようなマネジメント・サイクルを確立することが望ましい。

基準 8．財務

【判定】

基準 8 を満たしている。

【判定理由】

予算は、前年 11 月頃常任理事会で編成方針が決定され、翌年 3 月の評議員会に諮問し、理事会で決定するなど適正に決定されている。帰属収入は学生生徒等納付金比率がやや高いが、消費支出の計画的な管理がなされており安定した財政基盤を有している。教育環境充実のため、2 号・3 号基本金の組入を実施し、引当資産の運用を図っている。事業収入や資金運用収入の増加にも積極的であり、総じて教育研究目的を達成するために必要な経費が確保され、適切な運営がされていると認められる。

会計処理については、学校法人会計基準に則り適切に行われ、監事による内部監査とともに公認会計士による監査も定期的に実施されている。

財務情報は私立学校法などを踏まえて利害関係者の閲覧に供し、広く学内外に向けては、広報誌「With」に事業計画・事業報告や、予算・決算を掲載するなど公開は適切に行われている。

外部資金の導入に向けては、受託事業収入や私立大学学術研究推進事業、大学教育高度化推進特別経費補助金、高度情報化推進特別経費補助金、科学研究費補助金など幅広く申請し、獲得に努力している。

【優れた点】

- ・ 良好な収支バランスなど、財務の安定度は高く、また、人件費依存率や負債比率を低く工夫するなど資金の効率化にも留意されており、財務内容が良好であることは評価できる。
- ・ 外部資金の導入について、寄附金収入、受託事業収入、収益事業収入、資金運用収入、公的研究費補助金と幅広く導入努力がなされていることは評価できる。

基準 9．教育研究環境**【判定】**

基準 9 を満たしている。

【判定理由】

教育・研究目的を達成するための十分な広さの校地・校舎を有し、大学設置基準が定める校地・校舎面積を十分に上回っている。講義室、演習室、実験科学棟、ライブラリーセンターなどの教育施設は適切に整えられている。そのほかテニスコート、グラウンド、スポーツセンター、コミュニティハウス、アネックスファームなどの諸施設も設置されている。キャンパスが、太陽が丘キャンパスと薬学キャンパスの二つに分かれており、両キャンパスのバランスなど、施設設備の維持管理は良く工夫されて適切に行われている。これらは学生や教職員の利用のみならず、地域住民への開放などもなされており、有効に活用されている。丘陵地にあるためキャンパス間の移動の問題や、バリアフリー化推進の課題があるものの、十分に認識されており、今後一層の取組みが期待できる。また、教育・研究環境については、学生達が集うスペースもキャンパス内の随所に確保されるなど、安全性と快適性を確保しつつ適切に維持・運営されている。耐震補強や老朽化対策も計画的に実施されており、全般的に良好な状態にあるといえる。

【優れた点】

- ・ 図書館の蔵書は十分な冊数が確保されている。木肌をふんだんに使って良く整備された内装は落ち着いた雰囲気醸し、学生に好評である。ほぼ年間を通じて開館しており、学生・教職員のみならず地域住民にも開放するなど有効に活用されている。
- ・ 福利厚生面では、学生ラウンジ、カフェテリア、スポーツセンター、レストラン、シアター、ギャラリーなどがよく整備されており、緑豊かな自然環境の中でガラス面を多くとった光溢れるアメニティのコンセプト作りは評価できる。

基準 10．社会連携**【判定】**

基準 10 を満たしている。

【判定理由】

大学の使命の 1 つである社会連携の現状をみると、学外の各種団体からの要請により、大学の各種施設が様々な用途で有効に活用されている。

薬学部・未来創造の両学部・北陸大学オープン大学並びに北陸大学孔子学院は模擬授業や公開講座などを中心に一般市民や高校生の要求に合った様々なプログラムを幅広く提供している。更に、国や地方自治体からの各種委員を委嘱されている教員も多く、地域社会の要請に十分応えている。官公庁や民間企業との関係では、薬学部・未来創造学部ともそれぞれの学部特性と優れた人的資源を生かし密な連携を進めている。一方、他大学との関係でも、大学コンソーシアム石川に参加するなど、国内外の大学と姉妹校・友好校との協定で、学生・教員の相互教育が積極的に行われている。更に、石川県内のスーパーサイエンススクール指定校の要請による高等学校との協力関係は高く評価できる。特に、薬学部はその専門性を生かし活発に社会連携を進めている。

【優れた点】

- ・北陸大学オープン大学や北陸大学孔子学院が主体となって、健康教育、中国語・中国文化などの分野で公開講座、生涯学習講座などの事業を活発に実施されている点は評価できる。
- ・大学用地の旧地主や近隣住民との毎年恒例の花見の会を学内で催し、地域共同活動を実施している点は評価できる。

基準 11．社会的責務

【判定】

基準 11 を満たしている。

【判定理由】

大学の社会的機関としての組織倫理については、「北陸大学証」において教職員の良識と識見を持った社会人としての行動規範を明示し、これに沿った教育活動を教職員に明確に求めており、これを基礎として、学生の個人情報保護、権利、利益の尊重並びに学校法人の資産の適正な管理が図られている。特に、薬学部を有している環境から、安全管理・汚染防止、動物実験などの倫理規程を制定し、環境保全に努力している。危機管理体制においても、防災管理体制については管理本部長を中心に、日常の危機管理体制については、事務局長を中心にそれぞれ整備され、適切に機能している。更に、学生の通学時の安全対策に配慮されている点は、社会的責務として評価する。

教育研究の成果の公表・広報活動の体制については、広報誌「With」の発行、北陸大学紀要・北陸法学、東アジアの窓、北陸大学教育職員総覧、ホームページなどにより適切に学内外に公表される体制が整備されている。

Ⅳ 大学の概況（平成 19 年(2007)年 5 月 1 日現在）

開設年度	昭和 50(1975)年度
------	---------------

所在地 石川県金沢市太陽が丘 1-1（太陽が丘キャンパス）
 石川県金沢市金川町ホ 3（薬学キャンパス）
 学部・研究科数 2 学部 5 学科 1 研究科

学部・研究科の名称

学部・研究科	学科・研究科専攻
薬学部	薬学科（6 年制） 薬学科※ 衛生薬学科※
未来創造学部	未来文化創造学科 未来社会創造学科
薬学研究科	薬学専攻

※は募集停止

V 評価の経過

評価の経過一覧

年月日	実施事項
平成 19(2007)年 7 月 30 日	自己評価報告書を受理
9 月 4 日	第 1 回評価員会議開催
9 月 21 日	「基準ごとの質問事項等」を大学へ送付
10 月 5 日	大学から「基準ごとの質問事項等」に対する回答を受理
10 月 24 日	実地調査の実施
10 月 25 日	第 2・3 回評価員会議開催
～10 月 26 日	10 月 26 日 第 4 回評価員会議開催
11 月 21 日	第 5 回評価員会議開催
平成 20(2008)年 1 月 24 日	大学から「調査報告書案」に対する意見申立てを受理（意見あり）
2 月 22 日	大学から「評価報告書案」に対する意見申立てを受理（意見なし）

VI 提出された自己評価報告書・データ・資料

- ・自己評価報告書（付：CD-ROM）
- ・自己評価報告書・データ編（付：CD-ROM）
- ・評価機構が指定する資料

提出された「評価機構が指定する資料」の内訳

大学全体	
・寄附行為 ・大学案内 ・大学学則 ・大学院学則 ・学生募集要項 ・学生便覧	・履修の手引 ・事業計画書 ・事業報告書 ・アクセスマップ ・キャンパスマップ

基準 1 建学の精神	
・大学案内 ・大学学則 ・大学院学則 ・ホームページプリントアウト	・学生便覧 ・履修の手引 ・This is HOKURIKU UNIVERSITY
基準 2 教育研究組織	
・教育研究の基本的な組織図 ・教授会など教育活動を展開するための各種会議体の組織図 ・北陸大学運営規程 ・北陸大学孔子学院 ・北陸大学東アジア総合研究所 ・北陸大学教授会規程 ・薬学部教務委員会規程 ・未来創造学部教務委員会規程 ・北陸大学教育能力開発センター委員会規程 ・北陸大学学生委員会規程 ・北陸大学学術資料委員会規程	・北陸大学教育情報システム運営委員会規程 ・北陸大学留学生委員会規程 ・留学生別科運営に関する内規 ・北陸大学附属ほがらか薬局運営委員会規程 ・薬学部環境対策委員会規程 ・放射性同位元素委員会内規 ・薬学部生涯教育委員会規程 ・薬学部就職委員会規程 ・薬学部附属研究施設規程 ・薬学部附属研究施設委員会内規 ・北陸大学東アジア総合研究所規程 ・学校法人北陸大学エクステンションセンター規程
基準 3 教育課程	
・年間行事予定表 ・授業計画（シラバス）	・大学院授業計画（シラバス） ・授業時間割
基準 4 学生	
・大学案内 ・学生募集要項 ・北陸大学アドミッションセンター委員会規程 ・就職ガイドブック ・就職ハンドブック	・サイバーキャンパス構想 RVES ガイドブック ・ザ・中国生まれ、北陸大学育ち！！ ・学生生活の手引 ・北陸大学奨学金募集案内 ・いざ、学びの旅へ
基準 5 教員	
・北陸大学教育職員の人事に関する内規 ・学校教育法改正に伴う北陸大学教育職員任用基準 ・北陸大学大学院薬学研究科担当教員選考内規 ・北陸大学大学院薬学研究科担当教員選考及び審査細目 ・学校法人北陸大学就業規則	・学校法人北陸大学研究員規程 ・北陸大学受託研究取扱規程 ・北陸大学受託研究員受け入れ内規 ・北陸大学特別研究助成審議会内規 ・授業評価集計表
基準 6 職員	
・事務局組織図 ・学校法人北陸大学事務局規程	・学校法人北陸大学就業規則
基準 7 管理運営	
・学校法人北陸大学役員名簿 ・学校法人北陸大学評議員名簿 ・理事会・評議員会開催状況 ・管理部門の組織図	・学校法人北陸大学役員規程 ・常任理事会規程 ・自己点検・評価報告書
基準 8 財務	
・平成 18 年度決算報告書 ・With ・平成 19 年度予算書 ・平成 19 年度補正予算書	・平成 18 年度決算報告書 ・監査報告書 ・財産目録
基準 9 教育研究環境	

・学校法人北陸大学電気保安規程	
基準 10 社会連携	
・2007 春期講座案内 ・いざ、学びの旅へ ・ホームページプリントアウト	・Evidence-based Complementary and Alternative Medicine
基準 11 社会的責務	
・北陸大学学生等個人情報保護規定 ・北陸大学学生等個人情報取扱い細則 ・北陸大学放射線障害予防規程 ・北陸大学組換え DNA 実験安全管理規程 ・薬品類廃棄物処理規程 ・学校法人北陸大学防火及び防災管理規程	・学校法人北陸大学のグランドマスター・キー、マスター・キーおよび施設等の鍵の管理に関する基準 ・緊急事態発生時の通報・連絡経路 ・学生緊急時連絡体制・北陸大学 留学生用 緊急事態発生時の連絡・連絡経路 ・Joinus!